

第6回 ケミカルリスクフォーラム 質問票

「リスク評価ツール利用のいろは」 LSIメディエンス 榎田 基司 様

本日のご講演では、EUSESについてご説明がありませんでしたが、
①一般的には使用されていないのでしょうか？
②簡単で結構ですので、EUSESについてご教示いただけないのでしょうか？

- 1
- ①REACH登録時にリスク評価書（CSR）を作成するツールChaserにEUSESは含まれていません
②EUSESはECETOC TRAよりも前からEUで利用されている人および環境生物へのリスクを評価できるツールです。簡単に説明しますと、EUSESはソフトウェアですが、それをエクセルシートに簡易化したのがECETOC TRAになります。EUSESの詳細は以下のURLをご参照ください。<https://echa.europa.eu/support/dossier-submission-tools/euses>

「新しい評価手法（有害性評価、ばく露評価）」 日本化学工業協会 化学品管理部 本多 泰揮

資料P55のEPI Suiteを開発品のSDS作成時に活用できないかと思いリンクをクリックしましたが、リンク切れでしたので正しいリンク先をご存知でしたら教えて下さい。

- 1
- 申し訳ございませんでした。資料中のURLをバージョンアップされたモデルのURLに変更しております。新しいURLは以下となります。
<https://www.epa.gov/tsca-screening-tools/download-epi-suitetm-estimation-program-interface-v411>

- 2
- 今SDSでin vivo,in vitroの言葉の定義を調べているだけでは判らない背景があることを知り、大変助かりました。グルーピングは、動物愛護による動物使用数削減を加速するために用いられている手法という理解で宜しいですか？

動物実験の削減に有効ですが、そのためだけではなくコストダウンという面でも有効です。

- 3
- 動物実験代替として簡易予測手法がありますが、ベースとなる実測値情報を基にPCなどで条件設定をした上でシュミレーションするものかと存じますが、実測値情報自体のメンテナンスはどの位の頻度で行われているのでしょうか？精査の上、追加情報を加えるとしてもその追加情報を得る手段として動物実験をされているのでしょうか？ケースバイケースかと存じますが、ご教示頂けますと幸いです。

情報のメンテナンス頻度について具体的な情報は持ち合せておりませんが、バージョンアップのタイミングでメンテナンスされていると推測します。
追加情報としては、新たに見つかった、または公開された以前に試験された情報が考えられます。法規登録での要求等で実施された新たな動物実験の情報が公開された場合には追加情報として用いられると考えられますが、情報を追加する目的で動物実験を行うことはあり得ないと考えます。